

ハンディキャップを乗り越えた快挙 森田昭二氏博士号取得

3月17日、関西学院大学学位授与式で全盲の森田昭二さんが障害者福祉の歴史、特に盲人福祉について研究で人間福祉の博士号を取得した。森田さんは博士号をとった時のことについて「一言で言うとうれしい、晩年にこのような素晴らしい時間が訪れるとは思わなかった」と語った。森田さんは修士課程に入った時から博士論文を書くことを覚悟し、目標としていたという。



人間福祉博士号を取得した森田さん

森田さんは障害者福祉の歴史を研究する際、資料を直接目で見る事ができないことに苦しんだ。しかし点字を読めるので、点字の資料に触れることによって資料を学べる喜びがあったという。

森田さんは生まれつき視力が弱く、64歳の時に完全失明した。2005年に念願の本学大学院合格を勝ち取ったのであった。

森田さんはこれから盲人福祉の歴史を研究していくとともに、博士論文をまとめた森田さんは十分勉強ができた。家から通える場所として、図書館に通うことを選んだ。

そして、2005年に念願の本学大学院合格を勝ち取ったのであった。森田さんはこれから盲人福祉の歴史を研究していくとともに、博士論文をまとめた森田さんは十分勉強ができた。家から通える場所として、図書館に通うことを選んだ。

め本にしたいという。日本「地道に何かに取り組んでの盲人でも健常者と変わらない知識を身につけられるように点字図書や印刷や点字図書館などを作って、盲人の文化を高めようとした日本の人間福祉の源流と研究している。

昨年度の4月上旬頃から、夙川付近の住民からの苦情が西宮市役所に多数寄せられた。内容は、騒音やゴミの放置などだ。苦情はとひとつの道を歩ませてもらっていると感じる。そうした関心を大切にしてほしい」と語った。

公共の場を利用する場合は、個人の身勝手な行動が、他の人々への影響を及ぼすのかを考えたうえで、マナーを守って利用していかなければならない。

に失明した。65歳で、目の不自由な人のための総合福祉施設である日本ライトハウスで、点字を習い始めた。65歳以上だと指の感覚が鈍り、習得するのは難しいといわれている。しかし森田さんは根気よく学び、3ヶ月で読めるようになったという。

その後、本学社会学部の聴講生となった。修士課程に入ろうとしたが、提出した文章のレベルが足りず、断られてしまったのだ。また森田さんは十分勉強ができた。家から通える場所として、図書館に通うことを選んだ。

2000年 点字を習い始める
2004年 関西学院大学社会学部聴講生となる
2005年 同学大学院 社会学研究科 社会学専攻 前期博士課程 入学
2008年 同学大学院 人間福祉研究家 後期博士課程 入学
2014年 関西学院大学 人間福祉 博士号 獲得

改善された点と課題 夙川お花見マナーのその後

夙川でお花見や新歓コンパを行う学生に対するものが多く、関学生についての苦情も多数寄せられていた。これを受け、西宮市は今年度より、夙川公園におけるお花見の禁止や警備の強化など、様々な対応を行った。また、昨年までのマナーの悪さや今年度の対応の予定はテレビや新聞などでも多数取り上げられた。

結果、一般の人々への認知が高まり、今年度のお花見マナーは以前に比べ、かなり改善したが、マナー違反が依然残っている点もある。市の職員が放置されたゴミの回収に行くと、宴会に使われたブルーシートがそのままの状態に放置されていたこともあった。しかし、今年度は、マナーを守って利用している人も増えている。市としてもこのようなマナー違反が残る限り、お花見の禁止や警備の強化などを止めることはできない。マナーを守らない人がいるために、市は人件費などの費用を使う。またお花見を禁止することで、楽しいお花見の場を、きちんとマナーを守って行っている人からも奪っていると言えらる。

賑わうアカデミックコモンズ 神戸三田キャンパス

神戸三田キャンパスのアカデミックコモンズは、オープンから約一年が経った。現在どのように利用されているかを、神戸三田キャンパス事務室課長補佐の中谷良規さんに取材した。

4月は、新入生向けに多くのアクティビティが行われた。「Project Introduction」では、2014年度に誕生した11のProjectが紹介された。Projectとは、自分達が自ら設定した目的を達成するために結成したメンバーで実現に挑戦する活動だ。

Projectの1つ、「bibby本棚プロジェクト」は本を通じた出会いを生み出すプロジェクトだ。メンバーが本を選んでビブリオバトル（発表者がおすすめの本を紹介し、観客が投票して読みたくなった本を決めるゲーム）をしたり、その本に感想や書評をつけて、本棚に並べていたりする。神戸三田キャンパスで行われたビブリオバトル予選会から、全国大会チャンピオンが誕生している。

アカデミックコモンズの名物イベント「CRESCENT」は、毎週水曜日の昼休みに行われている。先生や職員、学生が1名ずつ登場し、自分の活動内容や経験を語る。毎回30人くらいが参加しているという。中谷さんは「来たら『おもしろい』と感じてもらえる空間を創ってきたい」と話す。また、学生が様々な企画を行う中で、「企画の内容を考えるだけでな

した11のProjectが紹介された。Projectとは、自分達が自ら設定した目的を達成するために結成したメンバーで実現に挑戦する活動だ。



5月8日から10日にかけて、本学劇団グループSomethingが新入生歓迎公演「ブスサーカス」を行った。会場である旧学生会館ママ上ホールには、連日多くの観客が訪れた。

「ブスサーカス」は、コメディに発展してしまう。そして、物語は切なく、思いがけない結末を迎える。

演出の高橋明史さん（文芸3）によると、「今回の脚本は、東京のタカハ劇団の高羽彩さんが書いたものをお借りした。皆が殺し合いに対して何も感じなくなっていく中で、一人だけは歪んでいながらも純粋な気持ちを持ち続けているという設定を、見てくださった方々に伝えたかった」と話す。劇中の演技や効果音なども高橋さんのねらいをうかがうことができた。

公演の終了後は、舞台裏を見学できるツアーも行われた。照明などの、普段の公演では公開されないようなところにも劇団員が案内した。ツアーは毎

今年紹介したエピソード他にも、公演に関する興味深いこぼれ話が劇団グループSomething公式ホームページで確認できるので、ぜひ訪れてほしい。

「ブスサーカス」公演 劇団グループSomething

「ブスサーカス」は、コメディに発展してしまう。そして、物語は切なく、思いがけない結末を迎える。

演出の高橋明史さん（文芸3）によると、「今回の脚本は、東京のタカハ劇団の高羽彩さんが書いたものをお借りした。皆が殺し合いに対して何も感じなくなっていく中で、一人だけは歪んでいながらも純粋な気持ちを持ち続けているという設定を、見てくださった方々に伝えたかった」と話す。劇中の演技や効果音なども高橋さんのねらいをうかがうことができた。

公演の終了後は、舞台裏を見学できるツアーも行われた。照明などの、普段の公演では公開されないようなところにも劇団員が案内した。ツアーは毎



劇中にはダンスシーンもあった

夏の献血週間

今、たくさんの方が輸血を待っています。高齢の方も、子供の方も私たちと同じくらいの年の方も、輸血を待ちながら毎日を生きています。私たちはその人々を笑顔にしたいと思います。みなさんそう思いませんか？一緒にたくさんの人を笑顔にしましょう。皆さんのほんの少しの勇気でたくさんの人を笑顔にできます。夏の献血週間を西宮上ヶ原キャンパスと神戸三田キャンパスにて行います。お時間ある方はぜひお願いいたします。

- ★神戸三田キャンパス★
6月20日(金)
10時30分～11時30分
12時40分～17時00分
場所：アカデミックコモンズ横
- ★西宮上ヶ原キャンパス★
6月23日(月)、27日(金)
10時30分～11時30分
12時40分～17時00分
6月24日(火)、25日(水)、26日(木)
12時50分～17時00分
場所：正門入って中央芝生の右側

新聞総部HPのコラム・バックナンバーはご覧になりましたか？



新総HPには、新聞に掲載する以外の情報も盛りだくさん！是非訪れてみてください！

こちらもよろしくお祈りします！

Twitter: @kg_shinbun (関西学院大学新聞)

Facebook: 関西学院大学新聞

関西学院大学新聞総部ホームページ
http://kgpress.digiweb.jp/

第2回 シュノーカツ最前線

第2回目となる今回は、前回紹介した「進路を考えるにあたっての「5つのステップ」のステップ3・4で述べられていた「業界・業種を選択する」、「企業を選択する」の2つの項目を中心に、キャリアセンタ―職員の方のお話を交えて、紹介する。

まず、業界・業種、企業をよく知るための3つの手順を紹介する。

第一に、どんな業界・業

種があるかを知り、そこにはどんな企業が属するのかわかる必要がある。図1は、業界・業種を20種類に分類した表である。最初は「知っている世界」「興味のある業界」という観点から見ていく方が分かりやすいだろう。その中で、それぞれの企業が競合している企業や取引している企業に目を向けていくと、その業界全体が把握でき、視野を広げやすい。

また、世の中には「企業」以外にも団体の形態があることを忘れてはならない。団体の形態は、大きく分けて①企業②非営利組織③特殊法人④公務員と4種類ある。自分が働きたいのは企業なのか否かについて検討する必要がある。最後に、それぞれの企業の存在意義について知る必要がある。「これは、企業を知ることでありながら、そのこと

ここで、業界・業種企業を知る方法について紹介してきた。ここからは、実際に選択するにあたって、活用してほしい方法を2つ紹介する。一つは、以前にも紹介した先輩訪問である。先輩名簿は、キャリアセンターにて夏に公開予定だ。(三回生対象)ぜひ、活用しておきたい。

もう一つは、インターンシップ制度だ。就活ナビサイトに登録して、自ら探す学生が多数派のようだが、KGキャリアナビ等を通じて学校からのインターンシップも紹介している。昨年は、約200名の学生が大学を通じてインターンシップに参加した。「最近キャリアセンターの窓口では、『インターンシップは行ってみたい方が就活に有利ですか』と尋ねられることがよくあるようだ。しかし、インターンシップをはじめ留學・資格取得などは、就活の際に決してマイナス

①農業、林業	⑧運輸業、郵便業	⑮教育・学習支援業
②漁業	⑨卸売業、小売業	⑯医療、福祉
③鉱業、採石業、砂利採取業	⑩金融業	⑰複合サービス事業
④建設業	⑪不動産業、物品賃貸業	⑱サービス業
⑤製造業	⑫学術研究、専門・技術サービス業	⑲公務
⑥電気・ガス・熱供給・水道業	⑬宿泊業、飲食サービス業	⑳分類不能の産業
⑦情報通信業	⑭生活関連サービス業、娯楽業	

図1 業界・業種分類表

く。そもそもブラック企業とはどのようなものなのだろうか。知恵蔵2014によると「労働者を酷使・選別し、使い捨てにする企業」と定義されている。元々は、暴力団などの反社会的勢力とのつながりを持ち、違法行為を繰り返す企業を指す言葉であったが、現在では労働法を無視、あるいは悪用して従業員に長時間労働を強制する企業を指すようになってきている。企業規模に関係なく入社3年以内の離職率が高く、30〜40歳の社員が極端に少ない等の特徴がある。若者を使い捨てにしていることから「ブラック」と呼ばれる所以がある。

またその他にもワンマン経営や一族経営などが要因となっており、法外な賃金を支払っているという現状もある。そして、ブラック企業では従業員が数か月でやめるケースも少なくなく、何年も勤務したとしてもその間の仕事の多くは誰でも出来る単純な作業であるため、専門的なスキルやノウハウをほとんど身に付けることができない。また企業側も対外的なスキルアップや資格取得には消極的な態度である。また同業他社にもこの実情が知られているため、仮にブラック企業を辞めたとしても自分の経歴にマイナスだけが残ることになる。

このようにブラック企業の実態は目に余るものであるが、この問題に対してどのような対応がなされているのだろうか。実際にブラック企業で働く労働者たちは労働組合に所属していないケースがほとんどで、単独での対応は無理である。そんな中、NPOや弁護士、社労士などが集まった「ブラック企業対策プロジェクト」と呼ばれる組織が立ち上がり、活動を展開している。

また、政府機関なども会社名の公表などの措置をとると発表しているが、自民党の公約からブラック企業対策の部分が「意図的に消される」という「ブラック」な話もあり、また安倍政権が事実上の「残業代ゼロ」に踏み切ろうとしている中、企業のさらなる「ブラック化」が進むのではという懸念もある。

論説 日進月歩

『メディアは真実性をとるか話題性をとるか』

4月9日、理化学研究所のユニットリーダーである小保方晴子氏の会見が行われた。彼女が公の場に姿を現したのは、STAP細胞の発表記者会見以来2か月ぶりのことだった。会見の冒頭、小保方氏は涙ぐみ震えた声で挨拶した。

革新的なSTAP細胞を発見した小保方氏を、メディアはこぞ取り上げた。しかし、その取り上げ方に違和感を覚えていた人も少なくないだろう。

彼女のことが報道されるようになったのは1月のことだ。しかし、メディアが注目したのはピンク色の研究室で割烹着を着て実験に取り組む姿であった。また小保方氏のような理系分野で活躍する女性を「リケジョ」と呼ぶ等、彼女の研究成果ではなく従来の研究者のイメージとは異なる小

保方氏のキャリアクターに目を向けられた。このことを小保方氏は「予想外の報道で恐ろしかった」と語っている。この言葉はメディアへのささやかな抵抗のようにも聞こえる。

また、会見後とあるスポーツ新聞では、一面全体が小保方氏の顔写真のアップであった。明らかに悪意を感じさせるものだ。メディアは疑惑の目を向けられた彼女をスクランタラスに取り上げた。彼女の高校時代の出来事や、上司である笹井芳樹副センター長との交際などをネタにし、世間の関心を引こうとした。あれだけ「リケジョ」と持ち上げて追い掛けているのに、簡単に手のひらを返した。

同様のことが2012年に起こっている。人工多能性幹細胞(iPS細胞)による世界初の臨床応用をしたという虚偽の発表をした元東大病院特任研究員、森口尚史氏存在を覚えているだろうか。読売新聞は「森口尚史客員講師らハーバード大研究チームがiPS細胞臨床治療を行い、その画期的な結果を国際会議で詳しく発表する」と大々的に報じた。しかし、ハーバード大側は「森口氏はマサチューセッツ総合病院(ハーバード大傘下)の客員研究員だったが、その後

は学校側との協力関係はない。森口氏の研究に関するいかなる臨床研究も、ハーバード大と病院側の倫理委員会によって承認されていない」と発表した。

この出来事から2年も経っていない。メディアは何も学んでなかったのだろうか。「リケジョ」を追いかけて回す前にすべきことがあったはずだ。論文を読んでもみるなどして自分たちで小保方氏の過去の論文やSTAP細胞についての研究成果を調べる努力をしてみようかと思える。読売新聞は「森口尚史客員講師らハーバード大研究チームがiPS細胞臨床治療を行い、その画期的な結果を国際会議で詳しく発表する」と大々的に報じた。しかし、ハーバード大側は「森口氏はマサチューセッツ総合病院(ハーバード大傘下)の客員研究員だったが、その後

まるわかりニュース用語

ブラック企業

最近、よく耳にする「ブラック企業」という言葉。昨年の流行語にもなり、ドラマの題材にもなる程社会の中に浸透しているが果たして皆さんはその実態をどれほど知っているのだろうか。今回はブラック企業について徹底的に解説してい

ブラック企業が出てきた背景には、バブル景気崩壊以降企業の経営体質が「コスト削減」の方向に流れていったことが挙げられる。この流れが正規雇用・非正規雇用を問わず、末端の従業員に長時間労働などの劣悪な就業環境の中での勤務を強いて、心身共に過度の負担を負わせるようになってきた。

ではブラック企業の実態はどのようなものなのだろうか。数多くあるが、まず挙げられるのは先に書いた「長時間労働」である。ブラック企業では常に収益の向上を名目に人件費削減を過剰に迫り、ため、仮にブラック企業を辞めたとしても自分の経歴にマイナスだけが残ることになる。

このようにブラック企業の実態は目に余るものであるが、この問題に対してどのような対応がなされているのだろうか。実際にブラック企業で働く労働者たちは労働組合に所属していないケースがほとんどで、単独での対応は無理である。そんな中、NPOや弁護士、社労士などが集まった「ブラック企業対策プロジェクト」と呼ばれる組織が立ち上がり、活動を展開している。

また、政府機関なども会社名の公表などの措置をとると発表しているが、自民党の公約からブラック企業対策の部分が「意図的に消される」という「ブラック」な話もあり、また安倍政権が事実上の「残業代ゼロ」に踏み切ろうとしている中、企業のさらなる「ブラック化」が進むのではという懸念もある。

大学から見た震災

震災から3年が経った今、大学という観点から震災を振り返りたい。
東日本大震災で被災した石巻専修大学・いわき明星大学、阪神・淡路大震災を経験した神戸大学・本学を取材した。

石巻専修大学

*震災時の学校の様子



2011年4月14日撮影



2014年5月8日撮影

地震発生直後、電話・電気が止まった。しばらくして、揺れが収まり、のちに災害対策本部となる鈴木均理工学部長の指示により、学内にいた学生、教職員(約300人)の安否確認を開始した。(地震発生時、坂田隆学長は学会出張により不在であったため、「石巻専修大学防災業務計画」に基づき対応) また、同時に学内に災害対策本部を設置した。校内放送により、中庭に集合するように呼びかけたが、雪が降り始めたため館内に移動させた。このころ、学内にいた教職員・学生全員の無事が確認された。夕方には、旧北上川の逆流が確認され、学内に住民が避難してくるようになった。その約一時間後、正式に受け入れを開始した。この日の夜は、学内にいたすべての人に備蓄していた非常食・水を提供することが出来た。12日の昼ごろからは、本格的に全

学生、教職員の安否確認に取り掛かった。13日には、別の避難所の受け入れが困難になり、300人の受け入れが要請された。しかし、この時点で非常食や水が不足しており困難に陥った。この時点で学内の避難者は約700人になっていた。(学生・教職員を含む) また、このころ石巻市社会福祉協議会防災担当が来学し、ボランティア拠点としてキャンパスの使用を要請された。さらに、自衛隊によりキャンパスの一部施設使用要請があった。14日には、事務職員がグループ編成を行い、学生部が学生のグループ編成を行った。このころになると、事務職員の間で一定の手順が生まれ、運営がスムーズに進むようになった。食料と水は不足の状況であったが、確保の目途がついてきた。17日には、教職員の安否確認が終了した。幸いにも、教職員は全員無事だった。この時点で学生の安否確認は

2割終了した。最終的に7名の学生が亡くなった。同日、坂田学長が大学に戻り、対策本部は学長の指揮のもと、適宜任務を遂行していった。
***当時の防災とそれに対する反省**
学内に避難していた教職員や学生、近隣住民に対して、備蓄していたパンの缶詰を震災当日の夕方と翌日の朝2回配給した。しかし、もっと多くの学生が在学している時期であったなら、不足した可能性もある。また毛布など停電時の防寒対策も十分とは言えなかった。そこで食料・防寒対策等の備蓄品を見直し、整備を整えている。
***震災を振り返って、自然災害に取り組む際の背景**
まず1つは、学生の人為的災害に対する態度である。地震のような自然災害はその怒りをぶつけようがない。人為的災害は、今後同じようなことが起こらないようにするために、責任の追及は必要である。しかし、ボランティアに来た学生たちを見てみると、人為的災害も自然災害と同じように仕方がないものと考え、憤りを感じている学生が少なくないと思う。これは、決して悪いことではない。穏やかで、現状を受け入れ前に進もうとしている点では素晴らしい。しかし、将来を担う彼らが、人為的災害は法的・社会的・政治的解決が可能であることを認識し、もう少し敏感になる必要があるだろう。
2つ目は、ボランティアの功罪についてである。被災地には多くのボランティアが訪れてくれた。震災直後からの2ヶ月程度は、これらのボランティアに対して被災者は強く感謝の意を示していた。しかし、次第にボランティア依存性が高まりすぎ、被災者の自助努力の意識が低下してしまつた側面も見えた。被災者にとって、生活のめどが立たないことかからくる焦りや疲労などの問題を配慮した、自立心を阻害しないボランティアのあり方を考えていく必要があるだろう。
3つ目は、被災地の実情調査である。被災地には、ボランティアとは別に実情調査という形でも多くの学生が訪れてきた。これらの調査は、今後の対応に役立つだろう。しかしながら、被災者の心情を無視した調査も存在した。災害の調査に関しては、十分な配慮のもとになされなければならないと思われる。

いわき明星大学

*震災時の学校の様子



2011年撮影



2014年撮影

いわき明星大学(福島県) 学長室長 小椋幸二さんに話を聞いた。
***震災時の学校の様子**
春季休暇のため、学生が学内に少なかったのが幸いだった。揺れは相当長く2〜3分に及んだ。地震発生当時、私は3階にいたが、棚の物が落ち、揺れのため歩けず、建物外に出ることが出来ない状態が続いた。しばらくして、揺れが収まり、職員・学生は避難訓練通りに行動し、全員が無事に学内の運動場に集まった。この落ち着いた行動は、被害が拡大せずに済んだという点で重要だったと思う。また、学校自体が高台に位置していたことで、建物にそれほど被害をうけなかったのもありがたかった。
その後、2週間は学生の安否確認に追われた。幸いにも、教職員・在学者に死者はいなかったが、新年度に入学予定の方が2名亡くなられた。
また、3月17日には行き場を失った学生のために観光バスをチャーターし、東京の日野市にある兄弟校に送り届け、同時に事務局を日野に移すなどの対応をとった。

約1400人が収容出来た。大ホールの舞台の天井が崩壊したが、ホール内には学生も全員無事だった。
震災発生日のこの日は、休校にし、学生には家に帰るように指示した。職員は残留者の有無の確認と建物の損傷度合の把握を行った。
その後、2週間は学生の安否確認に追われた。幸いにも、教職員・在学者に死者はいなかったが、新年度に入学予定の方が2名亡くなられた。
また、3月17日には行き場を失った学生のために観光バスをチャーターし、東京の日野市にある兄弟校に送り届け、同時に事務局を日野に移すなどの対応をとった。

***現在の学校の様子**
現在、我が校は震災前と変わらない状態を取り戻している。いわき市に至っては、原発周辺地域から避難してきた人々によって、人口が約3万人増加し、震災前以上の状態である。しかしながら、我が校への入学者数は半減している。その理由としては、県内の子供たちが経済的要因によって大学進学を諦めざるを得ない状況にあること、県外の子供たちにとつて福島県に進学することに抵抗があることが考えられる。これは、学校の経営が危ぶまれるだけでなく、復興を担う人材が不足している点において、県にとつても厳しい状況であるといえるだろう。
***被災地から伝えたいこと**
放射線問題について、福島県のほとんどの地域では、県外の人々が想像する以上に震災前と変わらない穏やかな生活を送っているということを伝えたい。原発事故のため侵入禁止になっている地域は確かに存在するが、福島全域が危険だと考えるのだけは避けてほしい。震災以前は、修学旅行客で賑わった会津は原発から離れた場所所に位置するのにもかかわらず、大幅に観光客が減少し大変苦勞されたという話を聞いた。観光業以外でも、風評被害に悩まされる業種は数多く存在する。
躊躇う気持ちは十分理解できるが、ぜひとも自分の足で福島を訪れて現状を把握してほしい。それが、今最も被災地が求めていることなのではないかと思う。

*当時の防災とそれに対する反省

日ごろから、避難訓練を行っていたのは本来に良かったと思う。自然と皆が訓練通りに行動したのには驚かされた。
反省すべき点は学校に備蓄がなかった点である。今回は、幸いにも春期休暇中であるが、学生が少なく、帰宅することの出来る状況だったが、学生が学内で避難生活を送ることになった時のために備える必要があると感じた。これらの反省から、現在は全学生分の食料(1週間分)・毛布・簡易発電機などを備えている。

神戸大学

神戸大学 都市安全研究センター長・教授の北後明彦さん、地域連携推進室長・人文科学研究科教授の奥村弘さんに話を聞いた。

大学の建物は倒壊や火災こそなかったものの、大きな被害を受けた。附属図書館では書架の転倒・傾斜によって図書が散乱した。理系学部では、計測機器の損傷やサンプル類・データの消失などの被害を受けた。

1月17日中に電気は回復したものの、ガス・水道の復旧には時間がかかった。大学は1月23日から1月29日まで授業を中止した。定期試験は中止になり、卒業論文・学位論文などは提出延期となった。交通機関がストップしているため、入学試験は大阪大、岡山大、神戸大の3ヶ所で行われた。センター試験が終わったのが不幸中の幸いだったと言える。

当日朝9時頃から学生や周辺住民が大学構内へ避難し始め、お昼頃には神戸大学地震災害対策本部が出来た。自衛隊が六甲台のグラウンドを1月20日から2月6日まで使用した。

阪神・淡路大震災を学問的に捉え研究を進める必要があるということ、1995年2月23日に、神戸大学（震災研究会）が生まれた。その研究は1996年に設立された都市安全研究センターに引き

継がれ、今に至る。

学外にいた教職員2名・学生39名の計41名が亡くなった。負傷者は、教職員19名・学生514名の計533名であった。毎年1月17日に、慰霊碑の前で黙とう・献花が行われている。

学内の備蓄は東日本大震災の際に東北に送っており、再備蓄が必要となっている。大地震への対応は進められているが、学生登校時を想定した対応や、地域の中での大学の役割など、検討すべき課題は多い。

阪神・淡路大震災の際には、木造アパートの下宿に住んでいる学生が多く亡くなった。そのようなケースに大学がどこまで対応できるかは難しい問題だ。

震災で起こる被害には多様性がある。一括したものではない。阪神・淡路大震災においても、地域によって被害に差があった。災害の記憶を継承し、想定していくために、イメージを伝える力が必要だ。具体的な話、個々の経験から普遍的なことを伝える。別のタイプの地震が来る可能性もある。どうやって対応するか、正しい知識を伝えていくことが大切だ。都市安全研究センターではオープンゼミナールを月に1回行っており、市民に向けて情報を伝えている。

関西学院大学

被害の様子

「激震―そのとき大学人は―」阪神・淡路大震災関西学院報告書より抜粋した。

本学の建物は倒壊こそ免れたが、建物・設備の損傷が相次いだ。大学のまわりには下宿が沢山あり、その多くが倒壊した。そこでは14人の学生が亡くなった。教職員の約15%が、自分の家が全壊・半壊になった。地震に襲われた1月17日の朝に出勤できた教職員はごくわずかだった。その数は日に日に増えていった。職員は長時間歩いたり、自転

車に乗ったり、電車を乗り継いだりして学校へ出勤した。全員で各部署の被害と教職員学生の安否についての調査を行った。

大学は、翌18日を入学試験の願書締め切りに設定しており、2月1日からの入学試験を控えていた。また、レポート、論文の提出に続き、2月13日からは定期試験の日程が組まれていた。合格者発表、卒業式、入学者の受け入れと連なる、大学運営にとって最重要期に地震が起きてしまった。学院は難題を突き付けられ、危機的な事態に追い込まれた。



図書館の様子

この地震で本学の学生・教職員23人が亡くなった。出勤した教職員を中心に全学連絡会を招集した。情報収集を行うとともに、緊急の対応がさまざまに討議され、措置が決められていった。

災害復興制度研究所 山中さんインタビュー

本学災害復興制度研究所 主任研究員・教授、元朝日新聞編集委員の山中茂樹さんに話を聞いた。

阪神・淡路大震災では、コミュニティの脆弱性が問題になった。現代ではコミュニティが希薄になってきている。災害の復興には、近隣同士で助け合えるコミュニティが必要だ。他にも情報網の混乱や、建築物の耐震性、ライフラインの被害が問題として挙げられた。

阪神・淡路大震災の前は雲仙普賢岳の火砕流や、奥尻島での津波が起きていた。これらの災害の被害状況はそれぞれ全く異なる。災害の形態によって教訓や問題は変わり、活かすのは難しい。法制度に関しては、災害が起こる度に変えても次の災害に対応できない。全体を見渡した法体系が求められる。

お金と人だ。復興のお金を出すためのファンドを作る。もう一つは、健全な市民社会に繋がるだろう。学生には自らの意見を持ち発信してほしい。専門家だけでなく、市民が、市民力、をつけていくことが大切だ。アメリカのサンタクルーズは、1989年に起きたサンフランシスコ地震で大きな被害を受け、街の半分が壊滅した。復興に向けて、行政は市民と共に復興委員会を立ち上げた。300回を超えるワークショップやイベントを行い、徹底した議論を行った。

自ら物事を考え、主張する市民力が日本には足りていないのではないか。意見を口に、議論を積み重ねていくことは、健全な市民社会に繋がるだろう。学生には自らの意見を持ち発信してほしい。

授業で震災を伝える 災害復興学入門・災害復興学

皆さんは災害復興学入門、災害復興学という共通教育センターが提供している科目を知っているだろうか。災害復興学入門は春学期に、災害復興学は秋学期に開講されている。

災害復興学入門では現場に根差した内容を、災害復興学では学問的に深い内容を扱う。日本で災害復興学の授業を開講している大学は全国でもごく僅かだ。

復興学という学問は、未だ理念や原論が完成していない。災害は不定期に起こるため、継続して研究しつづらく学問になりにくい。復興学には全学問が関係しているものの、教員が少ない。それに、それぞれの専門の片手間で研究することが多い。学問体系として復興学を学べる学部が必要だが、研究者が少ないこともあり、設置が進んでいないのが現状である。

復興学という学問は、未だ理念や原論が完成していない。災害は不定期に起こるため、継続して研究しつづらく学問になりにくい。復興学には全学問が関係しているものの、教員が少ない。それに、それぞれの専門の片手間で研究することが多い。学問体系として復興学を学べる学部が必要だが、研究者が少ないこともあり、設置が進んでいないのが現状である。

震災時から続くボランティア 関西学院ヒューマンサービスセンター

関西学院ヒューマンサービスセンターボランティアコーディネーターの杉浦健さんに話を聞いた。

1995年1月17日の阪神・淡路大震災の時に本学の災害支援ボランティアの活動は自発的に始まる。関西学院とその周辺において、大学生、中学部・高等部生徒、教職員、さらには同窓、近隣住民など多くの人がボランティア活動に従事し、「関西学院救援ボランティア委員会」がこれらの人々の結集点として組織された。登録数は2500人超。その活動は社会的にも高い評価を受けた。特筆すべきは学生と教職員が横並びで動き始めた点である。

避難所でのボランティアニーズが減り、ボランティアの撤退が議論されるようになってきた。しかし、せっかくなので活動を止めてしまふのは勿体ない。そうして4月16日の救援ボランティア委員会の解散と同時に「関西学院ヒューマンサービスセンター」が発足、その活動は19年たつとも継続している。

ヒューマンサービスセンターはボランティアコーディネーター、学童保育ひまわり、佐用町学生支援ネットワーク「チャコネット」、共働プラットホーム（災害復興支援）の4部門に分かれて活動している。ひまわりの活動は災害支援として始めた活動が根本になっ

る。阪神・淡路大震災直後に学生が避難所で子どもの支援を始め、それが今もなお学童のボランティアという地域に密着した活動につながっている。災害復興支援に携わる共働プラットホームは東日本大震災後の2011年6月21日に誕生した。それまでさまざまな支援活動を行っていた学生や学生団体に個々の活動を「共働」することを呼び掛けた。それぞれの学生が強みを活かして事業に参加することで、お互いを活かしながら活動できるようになった。

2014年度の秋学期からは災害復興学の特別企画授業「震災バネがつくった私の人生」が開講される。震災バネという言葉は、被災という辛い体験でくじけるのではなく、逆にこの逆境を糧にして人として成長し、新しい災害文化を形成していくことを意味する。講義をするのは復興リーダーとして、全国や世界で活躍する人々だ。この授業は東北3県に動画配信される。開学から東北へ、復興へのヒントを届ける。

杉浦さんは、「ボランティアの根底にあるのは『やりたい』を『できる』に変えるための自発的なアクションだ」と話す。ボランティアでは、たくさんの学びや気付きが得られる。学生が自主的に取り組むからこそ、活動は続いていく。



K.G. studio

K.G. PEOPLE

8. 学生団体 SHELLY

藤井 海帆さん (総政・3)



今回は、関西女子大生団体 SHELLY の企画部長を務める藤井海帆さん(総政・3)を紹介する。

藤井さんの所属する女子大生団体 SHELLY は、企業とコラボレーションして商品開発やイベントの企画

活動では、1年に1回、夏に1週間続けて徹夜をする合宿などもあったという。「大変なこともあったが、たくさんの人とのつながりができ、楽しかった」と振り返る。会計を研究するゼミに入り、友人と楽しく過ごしたそう。また、当時から菓子作りが好きで、よくクッキーやマドレーヌなどを作っていた。

就職活動中は、特定の業種、業界に絞らず、様々な業種に挑戦した。だが、その分苦戦を強いられることもあった。その中で、大勝さんは好きなお菓子作りを仕事にしたいと思い、製菓関係の職種を目標にしていった。会計研究会の

今回は、関西女子大生団体 SHELLY の企画部長を務める藤井海帆さん(総政・3)を紹介する。

藤井さんの所属する女子大生団体 SHELLY は、企業とコラボレーションして商品開発やイベントの企画

生を外見から輝かせることと」をコンセプトに、美容に携わる企業を招いて行う SHELLY 最大のイベントであるという。

そこで、女子大生を外見から輝かせる側として、やはり自分も外見に気を遣うようになったかと尋ねてみた。すると、「むしろ、以前より外見へのこだわりはなくなっただけかもしれない」と意外な答えが返ってきた。「入学当初は、もっと派手だったと思う。自分に自信がなかったのを見て目で見繕おうとしていた部分があった。しかし、

生を外見から輝かせることと」をコンセプトに、美容に携わる企業を招いて行う SHELLY 最大のイベントであるという。

そこで、女子大生を外見から輝かせる側として、やはり自分も外見に気を遣うようになったかと尋ねてみた。すると、「むしろ、以前より外見へのこだわりはなくなっただけかもしれない」と意外な答えが返ってきた。「入学当初は、もっと派手だったと思う。自分に自信がなかったのを見て目で見繕おうとしていた部分があった。しかし、

現在、SHELLY は新入生を募集している。「SHELLY は人と環境に恵まれた団体。変わりたい、成長したいと感じている女の子にぜひ来てほしい」と笑顔で呼びかけた。

現在、SHELLY は新入生を募集している。「SHELLY は人と環境に恵まれた団体。変わりたい、成長したいと感じている女の子にぜひ来てほしい」と笑顔で呼びかけた。

今回のK.G.studioは、K.G.peopleとタイムスリップです。K.G.studioでは学生団体SHELLYで企画部長を務める藤井海帆さんに、タイムスリップでは、関学近くのチョコレート専門店「ショコラティエール・デリスモア」を営む大勝久美子さんに話を聞きました。

タイムスリップ

第九回 大勝 久美子さん (06年卒)

今回のタイムスリップでは、本学商学部出身であり、現在チョコレート専門店「ショコラティエール・デリスモア」を営んでいる大勝久美子さんに、学生時代の思い出と、就職後の体験談を語っていただいた。

大勝久美子さんは、関学の正門近くで、チョコレート専門店である「ショコラティエール・デリスモア (chocolatiere DELICES moe)」を営む女性だ。大勝さんは本学商学部出身である。自分の店を持つ夢を実現し、経営する際に使える技術を学べるのではないかと、商学部に入学した。在学中は会計研究会に所属し、簿記の学習や、指導を行っていた。会計研究会の

活動では、1年に1回、夏に1週間続けて徹夜をする合宿などもあったという。「大変なこともあったが、たくさんの人とのつながりができ、楽しかった」と振り返る。会計を研究するゼミに入り、友人と楽しく過ごしたそう。また、当時から菓子作りが好きで、よくクッキーやマドレーヌなどを作っていた。

就職活動中は、特定の業種、業界に絞らず、様々な業種に挑戦した。だが、その分苦戦を強いられることもあった。その中で、大勝さんは好きなお菓子作りを仕事にしたいと思い、製菓関係の職種を目標にしていった。会計研究会の

活動では、1年に1回、夏に1週間続けて徹夜をする合宿などもあったという。「大変なこともあったが、たくさんの人とのつながりができ、楽しかった」と振り返る。会計を研究するゼミに入り、友人と楽しく過ごしたそう。また、当時から菓子作りが好きで、よくクッキーやマドレーヌなどを作っていた。

就職活動中は、特定の業種、業界に絞らず、様々な業種に挑戦した。だが、その分苦戦を強いられることもあった。その中で、大勝さんは好きなお菓子作りを仕事にしたいと思い、製菓関係の職種を目標にしていった。会計研究会の

活動では、1年に1回、夏に1週間続けて徹夜をする合宿などもあったという。「大変なこともあったが、たくさんの人とのつながりができ、楽しかった」と振り返る。会計を研究するゼミに入り、友人と楽しく過ごしたそう。また、当時から菓子作りが好きで、よくクッキーやマドレーヌなどを作っていた。

就職活動中は、特定の業種、業界に絞らず、様々な業種に挑戦した。だが、その分苦戦を強いられることもあった。その中で、大勝さんは好きなお菓子作りを仕事にしたいと思い、製菓関係の職種を目標にしていった。会計研究会の



大勝 久美子 (おかつ・くみこ)

2002年に関西学院大学商学部に入學、2006年に卒業する。同年にはゴンチャロフ製菓株式会社に入社し、2012年に退社するまでに、製品の製造、開発に携わる。2012年に西宮上ヶ原にショコラティエール・デリスモアを開店、店長となり、現在に至る。

文芸部 連載小説

『刹那 (一)』

馬場 広大

鳥丸はコンビニのATMで金を下ろしている。ガラス越しに外を見ると、駐車場の黒塗りのメルセデスベンツが一台停まっている。助手席に乗ったいかにも善良そうな顔の男が、こちらを見て笑っている。「そんなに金が大事か……」鳥丸はそう呟くと、ヘルメットを抱えて店内を物色しはじめた。コーヒートクリームパンを買い、外に出ると、数メートル離れたところにある灰皿の脇に立ち、煙草を吸っている男の姿があった。「なあ、市原」鳥丸は呼びかける。「金なら払ったんだからよ、もうつきまといでくんよ」そう言うと鳥丸は市原の方へ歩いた。そのとき後ろから足音がしたので、振り返ると、先ほど助手席に座っていた男が両手をポケットに突っ込み、首を左右に揺らしながら近づいてきた。市原も煙草を吸い終えて、鳥丸に近寄ってきた。「金じゃねえよ」市原が半笑いの声で続ける。「っていうか、金だけで終わると思うか? だいたい指も詰めねえで組を抜くようなんぞ、虫が良すぎるんだよ」市原は鳥丸と相対した。鳥丸は自分の尻のあたりに、硬く鋭い痛みを感じた。「ぼくちゃん、おつきしちゃった」ふざけた声がかかると、線を引きような痛みが鳥丸の右太ももの裏を走った。「うっ」鳥丸がうめいて後ろを見ると、灰色のスウェットに血がにじんでいた。男は鳥丸の尻に突き刺したナイフを右太ももからふくらはぎにかけて切りつけたのだ。鳥丸は自分のスウェットに浮かび上がる赤いラインを見ると、痛みが倍増するように感じた。そのまま傷を押さえていると、メルセデスベンツの後部座席からスーツの男が二人やってきた。両脇から鳥丸の体を抱え、後部座席に引きずっていく。市原は運転席に乗り込み、ナイフの男も助手席に戻り、車は発進した。「なんだよお前ら、何がしてんだよ」鳥丸は喘いでいた。後部座席のシートはすでに赤く染まっていた。市原はバックミラーを見ると、口元に微笑を浮かべ、「お前にはこれからギャンブルをやってもらう」と言った。「ギャンブル?」「ああ」「待てよ、俺はもう金を払ったし、お前らとの縁も切れたはずだ……」そこで両脇の男二人が鳥丸の左腕を掴み、前に差し出した。その隙を見逃さず、助手席の男がナイフを振りかざし、出された腕の小指を切り落とした。鳥丸は叫び声を上げた。「もう二度と無駄口を叩くな。次は右手の小指だ」市原は落ち着いた声で言った。「はい」か「いいえ」だけ口にしていい。わかったか? 「はい……」「捨て駒が必要なんだよ」市原が煙草を取り出すと、ナイフの男が火を点けた。市原は一口だけ吸って、吸い殻を窓の外に捨てた。「着いた。この倉庫だ。このギャンブルは、負ければ命を落とす」市原は鳥丸を見て笑った。

大集結！ ソラン誕生記念 大学マスコットキャラクター図鑑！

昨年11月に、本学のオリジナルマスコットの「ソラン」が誕生しました。今回はそんなソランをより知ってもらうため各大学のご協力のもと、ソランとのお友達を紹介いたします。

龍谷大学 「ロンロン」



龍谷大学
名前…「ロンロン(ロン君&ロンちゃん)」
生年月日…2010年10月12日
性別…ロンくん・男、ロンちゃん・女

製作目的 龍谷大学創立370周年の記念事業の一環として製作された。当初は双子のキャラクターではなく、黄色い男の子の龍のマスコット1体で展開される予定だったが、その後在學生などの要望によって、2011年3月下旬、新たに女の子のマスコット「ロンちゃん」が誕生した。

チャームポイント 龍谷大学の頭文字である「龍」がモチーフにされた、親しみやすい愛称とマスコットキャラクターには珍しい双子というキャラクター性。

同志社大学
名前…「Ben-k」
生年月日…2008年11月6日
性別…男

製作目的 創立者新島襄を歴史上の人物ではなく、今の同志社にも脈々と生き続ける身近な存在として学生に感じてもらうと考えた。そのため、新島の愛犬家という「私」の部分を取り上げてマスコット化した。

チャームポイント 身だしなみをととのえていた新島襄と同じく、3つ揃いのスーツスタイルに、蝶ネクタイ、山高帽の正装、飼い主を彷彿とさせる、立派な口髭。

同志社大学 「Ben-k」



ソラン誕生秘話

「関学のマスコットを作りたい」それが実行に移されたのは2013年のことだった。六総部二自治会の会議を通して、マスコットの原案を公募することを決定した。125体の応募があったという。

そして、最終選考に残った5体の中から関西学院の学生、生徒、児童、同窓会に投票を呼びかけ、ソランが誕生した。ソランの運営を担当する中西峻之さん(教・3)は、マスコットを選考するにあたって、「関学のイメージを反映したマスコットを、たくさんの方の応募の中から選ぶのは大変だった」と話した。

ソランはこれから本学の創立125周年記念の式典などにも登場するという。中西さんは、「ソランを通じ、学生が関学をもっと好きになってもらえれば嬉しい」と語った。



関西学院大学
名前…「ソラン」
生年月日…2013年11月2日
性別…不詳

製作目的 本学の創立125周年を記念し、一般学生やOBにより関学のことを好きになってもらえるように考案された。

チャームポイント くりっとした目

主な活動 125周年行事など、節日の式典、その他校歌を歌う場所などに登場する。

奈良教育大学 「なっきょん」



奈良教育大学
名前…「なっきょん」
生年月日…2008年10月1日
性別…男の子でも女の子でもない

製作目的 2008年に創立120周年を迎えることを記念し、学生・地域の皆様により一層親しみを感じてもらうため、また大学構成員のアイデンティティを高めてもらうとともに、地域社会に奈良教育大学をアピールすることを目的に製作した。

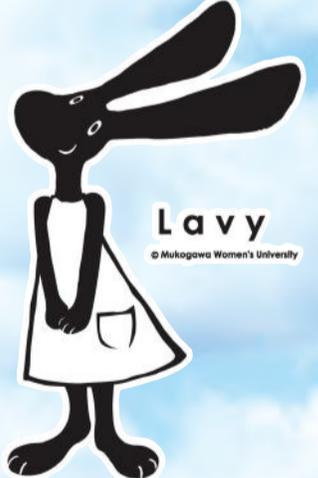
チャームポイント 奈良のシンボルであるシカをモチーフにしている。教育大学の「育つ・育てる」というイメージを角の新芽(ふたば)に表現している。大人でも子供でもなく、また男の子でも女の子でもない、ちょっと不思議で愛らしいキャラクター性が魅力。

武庫川女子大学
名前…「Lavy」
生年月日…2009年
性別…女

製作目的 学院創立70周年の記念事業の一環として誕生。多くの人に親しまれ、長く愛されるキャラクターを目指した。

チャームポイント これからの時代を生きる、利発な女性の感性を表現したボディーと、跳躍力を生かしてワールド・ワイドにどんなところにも飛び跳ねて出かける長い脚。

武庫川女子大学 「Lavy」



関学神戸三田キャンパスから一番近い教習所

● 取得できる車種 ●

大型車・中型車・普通車(AT/MT)・
大型二輪車(AT/MT)・普通二輪車(AT/MT)

お申込みは、大学生協サービスカウンターにて受付できます。



兵庫県公安委員会指定
三田自動車学院

三田市志手原1147-1 TEL:079-562-2995
E-mail:sanda-as@poppy.ocn.ne.jp HP:www.sas-menkyokaiden.com

